

めりくり！ ハロウィンが終わったと思ったら（図書館はもう Xmas!）、クリスマスが近づいてきたね。クリスマスといえばサンタですが、むかしアメリカで、バージニアという女の子が友だちに「サンタなんていやしないのさ」とばかにされて、新聞社に「サンタクロースはいるの？」と手紙で尋ねたことがありました。新聞社はその質問に真剣に答えて、「妖精が見えないけれどいるように、サンタもいます。信じる心、想像力、詩、愛、夢見る気持ちがあれば、見ることができます」と回答しました（『**サンタクロース**っているんでしょうか？』）。普段から天使だのペガサスだの言っているぼくもまったく同感で、たとえサンタを信じられなくなっても、「世界のどこかにみんなを幸せな気持ちにさせる存在がいるかもしれない」と思うほうが幸せであると思っています。

オススメ本紹介！

『お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件』

（～8） 佐伯さん

なんと『このライトノベルがすごい！ 2024』で、前代未聞の5冠を達成！ 殿堂入りを果たした『**やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。**』や『**ソードアート・オンライン**』ですら成し遂げなかった快挙です！ 今年の初めに放映されたアニメも大好評で、すでに第2期制作が決定しています。こんなラノベを待っていた！ 甘々で焦れ焦れな純愛ラブコメなのです。進学して一人暮らしを始めた高校一年生の藤宮^{あまね}周。彼の住むマンションの隣の部屋には、学校で一番の美少女で「天使様」と呼ばれる椎名真昼が住んでいる。特に関わり合いのなかった二人だが、ある秋の雨の日、公園でずぶ濡れになったままブランコに揺られる真昼を見かねて、周は差していた傘を押しつけた。日頃の不摂生がたたって、雨に濡れた周は風邪をひいてしまう。傘を返しに来た真昼はその責任を感じ看病をしようとする。だが、周の部屋のあまりの汚部屋っぷりととんでもなく不健康な食生活に呆れ、掃除の手伝いやおかずの差し入れなどをするようになり、やがて周の部屋で夕食を作って、食卓を共にするようになってしまったのだ。自堕落な一人暮らしを送る周を黙って見ていられず、なにかと世話を焼こうとする真昼。隣同士で暮らす二人は、ゆっくり、少しずつ、お互いの心を通わせていく。これは、可愛らしい隣人との、甘くて焦れたい恋の物語——。

『^{なんじ}汝、^{なぎら}星のごとく』 凧良ゆう

『**流浪の月**』に続く二度目の本屋大賞受賞作！ 王様のブランチBOOK 大賞、紀伊國屋書店が選ぶ「キノベス！ 2023」第1位、高校生直木賞も！ 舞台は瀬戸内の小さな島。愛人のもとに父親が去って行ってしまった暁美。生まれてすぐに父親を亡くし、一時たりとも男なしでは生きられない母親に育てられた権。「普通ではない」親に振り回され、苦しんできた二人は高3で出会い、同じ孤独を分け合える恋人になった。二人はともに島を出ることを望んでいたが、権が在学中に雑誌連載を決めマンガ家としての将来を切り開いて東京へ行こうとする一方で、暁美は父親の愛人の家に火をつけようとするところまで追い詰められてしまった母親を見捨てることができず、島に残ることになった。東京で夢を叶えてプロのマンガ家になり、作品がヒットしてちやほやされる権。両親が離婚し、経済的な不安から高卒で地元の旧態依然の会社に就職した暁美。対等だったはずの関係に生じた不均衡。暁美は、権に女の影を見、自分に退屈していることに気づく。自分に価値を見いだせず、侮られる程度でしかない自分が悔しい。本当に相手のことだけを愛していた二人なのに、すれ違ってしまう…。

『**星を編む**』 凧良ゆう

そして、待望の спинオフ 続編！ 二人がとってもお世話になった、あの北原先生の秘められた過去、知りたかったですよね！ 経済的な理由から、北原は大学院を辞め、地元の高校の先生になった。そこで、市内で名の通った大きな病院・明日見総合病院の一人娘である明日見菜々と出会う。彼女が深夜、スノーボードのハーフパイプの選手である彼と一緒にいて、警官に詰問されそうになったところを、機転を利かせて助けてあげたのだ。以前、明日見総合病院で具合が悪くなった父の世話をしてくれた恩を返したつもりだった。翌日、お礼を言いに来た明日見さんにそのことを告げると、彼女もあの時助けられたのだという。実はあの日は、「お見合い」だった。病院を継いで、財産を守っていけると、明日見家のお眼鏡にかなった優秀な医師を何人も紹介された。その場から逃げ出す口実になったのだそう。敦くんにつきあっていることは秘密で、父に知られたら大変なことになる。でも、いつかは父の庇護下から抜け出して、自立して自分でお金を稼いで、好きな人と暮らしたいと彼女は語った…。「敦くんには自由に、思いのまま、生きてほしいんです」。ほかに、権が残した小説の刊行と、抹殺されてしまったマンガの復刊に向けて、敏腕編集者2人が共闘する表題作、島でともに年を重ねていく暁美と北原先生のその後を描いた一編を収録。

『なれのはて』 加藤シゲアキ

吉川英治文学賞&高校生直木賞W受賞の『オルタネート』から3年！急成長した加藤シゲアキの勝負作です！テレビ局の報道局の第一線で活躍していた守谷京斗は、ある事件のためにイベント事業部へと飛ばされることになった。イベント事業部とは、取材力などとは無縁の、テレビ局の関わるさまざまなイベント（デパートで大人気のアニメイベント！）を手がける部署で、守谷からすれば流刑とも言えた。まったくやる気の起きないままイベント事業部に行くと、自分よりも年下のフラワーな70年代ファッションの女性・吾妻李久美が指導役になることになった。しつこくつきまとう彼女になぜイベント事業部を希望したのか尋ねると、「好きな絵があるんです」と言う。亡くなった祖母からいま着ている洋服とともに譲り受けた一枚の絵。彼女はその絵を見たとき、自分の何かが変わったと感じた。たった一枚の絵が一人の人間を変えてしまう。他の人にもそういう体験を持ってほしいと希望したのだそうだ。少年の絵だ。裏に「ISAMU INOMATA」とサインのある。だが、調べてもその画家の素性はまったくわからず、作品もその一枚しかないのだという。守谷は「無名の天才『イサム・イノマタ』～たった一枚の展覧会～」というかたちでの開催を提案する。実現に向け謎の画家の正体を探り始めると、1961年の元日に秋田の石油会社の社長が焼死した事件の同日から失踪している弟であることがわかる。そこは、終戦前夜の最後の空襲「土崎空襲」が行われた地だった…。「人間」がしっかりと描かれます。

『夜明けのはざま』 町田そのこ

「自分の情けなさに歯噛みしたことのない人間なんて、いない」。家族葬専門葬儀社の＜芥子実庵＞で葬祭ディレクターとして働く真奈は、その仕事にやりがいを感じ、誇りを持って働いているが、恋人の純也はその仕事自体をよく思っていなかった。結婚のプロポーズのときにはっきりと「結婚の話を進める前に、できれば転職を考えてもらいたい」と言われた。転職が嫌なら専業主婦でも。とにかくいまの仕事を辞めてほしいというのだ。結婚のために仕事を諦めなくてはいけないのか。悩む真奈のもとに、親友が自死したという知らせが届く。遺書には、芥子実庵で、真奈の担当で、葬儀をお願いしたいとあった。「無理だ。お前は遺族側だ」とみなに口をそろえて言われたが、真奈は親友の頼みに応えようとする。実は親友は作家で、彼女の書いた小説がきっかけで葬儀社に勤めたのだった。死を見ないで生きてきただけだった、死に対して温室育ちだった自分を恥じて。

『あなたの燃える左手で』 朝比奈 秋

「麻酔から覚めると、見知らぬ他人の手が移植されていた」。泉鏡花文学賞&野間文芸新人賞をダブル受賞！ハンガリーで内視鏡技師として働き、ジャーナリストかつ看護師として紛争地の取材と医療支援に奔走している妻をもつアサトは、左手の甲がうっすらと腫れてきたために受診すると、悪性の肉腫だと診断され左手を切断することになる。それは誤診であったため、左手を失い幻肢（存在しない手を存在していると感じること）に悩まされていた彼は、まったくの他人の手を移植される。白人労働者の爪の形も違う手。「手術がどれだけうまくいこうが、リハビリがどれだけ順調に進もうが、手が腕にどれだけ馴染もうが」「君が失った左手にはならない。なぜなら、他人の手だからだ」。「日本が手の移植を行わないのは、日本に国境がないからじゃないのかな」。手の移植が国境と重ねて語られます。ハンガリーはウクライナを含む7つの国と隣り合っているのです。

…そのほかにも、

一億部突破！『キングダム 70』、

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

がいよいよ映画公開！

汐見夏衛さん（女性だって知っていました？）

最新刊！『傷だらけの僕らは、

それでもいつか光を見つける』、

小川糸さんの<ツバキ文具店>シリーズ最新作

『椿ノ恋文』、

坂木司さんの<和菓子のアン>シリーズ最新作

『アンと幸福』

などなどなど！

◎「しおりコンテスト」のしおりができあがりしました！

大好評配布中！ ほしい人は、図書館のカウンターまで！

——— 毎年年賀状を早くから作ってしまうせーやさんですが、去年、干支がドラゴンだと勘違いして作ってしまった（慌ててうさぎで作り直しました（泣））ので、もうすでにできています！ 来年の干支が辰たつでしたね。うさぎに続けてドラゴン！ いいですね♪
では、図書館で。